

# 会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日にち	令和8年1月23日(金)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	愛知県豊田市
3 参加者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	メタバースの活用について
5 主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「メタバースとよた」の概要と運用方法</li> <li>・費用と財源、成果と課題について</li> </ul>
6 所感、提言事項、課題等	<p><b>【寺島芳枝】</b>  豊田市の DX の推進は2020年度(令和2年)に全庁の DX を担う部署が必要と判断し、情報戦略課が発足した。そして6年間、体制整備やシステムの導入・実証、人材育成などを積極的に推進してきた中で、メタバースに着目し、社会情勢や心理的距離、身体的距離の課題をメタバースが解決可能と判断し 2024年度より「メタバースとよた」を構築した。  その主な内容として、  ①メタバースプラットフォーム「cluster」に(ブラウザ参加可能)に構築  ②活用に興味のある団体等への無料貸し出し、団体等が主体となってイベントを実施することが可能  ③イベント等の目的に合わせて機能別に 4 つのエリアを設定  &lt;本格的始動をする前に次の4つの実証実験を行ってきた&gt;  ・ほっと親の会inメタバース(不登校児童生徒の親対象)  ・豊田市先輩職員のメタバース懇談会(就職希望の学生)  ・メタバース相談空間体験会(ひきこもりの方の親対象)  ・メタバースで世界に飛び出そう(不登校児童生徒が支援員と一緒に専用機器を装着して)  このメタバースは、今後重要な社会インフラになると予想される。  導入時のコストは 1/2 補助があり、4千万円。ランニングコストはイベント回数にもよるが、600万円(補助制度があると良い)。メタバースならではのアバターとなり、コミュニケーションを図ることで新たな課題解決につながると考える。先進地の職員は熱い。目的がぶれないから、発展も助言も受け入れられ、つながっていくことを感じた。</p> <p><b>【片山竜美】</b>  ・全庁の DX 推進を担うため、2020年に3名ほどで情報戦略課が発足し、現在では、10名の陣容で今回の「メタバースとよた」をはじめ、様々な DX の推進へ動いている。  ・豊田市が広範囲に及ぶことや新型コロナウイルス感染症などの影響もあ</p>

り、メタバースが重要な社会インフラになると予想し、実証実験を踏まえたうえで、この「メタバースとよた」の導入に至った。

- ・「メタバースとよた」はメタバースプラットフォーム「cluster」(ブラウザ参加可能)に構築し、活用に興味のある団体等へ無料で貸し出し、団体が主体となって実施することが可能である。
- ・イベントの目的に合わせて常時開設の「はじまりの森」「and カフェ」とイベントごとに開設する「まなびの森」「つながるアリーナ」の4つを設定している。
- ・このメタバースを「不登校児童生徒とその保護者支援」や「ひきこもり支援」だけでなく「就労支援、採用活動支援」や「住まいに関する悩み相談」等にも展開している。
- ・また、消防のイベントやはたちの集いなどにも活用の幅を広げている。
- ・初期費用は約4千万円。そのうち国からの補助が半分ある。しかし、ランニングコストには補助がないため、200万円を超える財政負担がある。
- ・大きなイベントには市外の方も参加し、豊田市と関係する人口が増え、興味をもつ方が増えることは喜ばしい。
- ・今後の展開として、「もっと周知をして活用の場を広げること」「職員の人材を育てること」「コスト削減のため、有償の貸し出しやそれぞれの課で運用できるようにしていく」等検討している。

【所見】

\*「メタバースの活用」は、「不登校支援」では見てきたが、全庁的に取り組んでいるのは、豊田市だけである。人口が40万人いるから導入できたのかもしれないが、市民に寄り添い、市民の利便性向上のために努力する姿勢は学びたい。

\*メタバースの活用は、決して「不登校支援」だけで終わらせない。活用範囲を広げ、困っている人、悩んでいる人が気軽に相談できる。DX化を進める多治見市も一考の余地はあるのではなか。

\*「メタバースとよた」は始まったばかりで、これからどんどんバージョンアップしていくと予想される。5年後に、どう進化しているか、また続けているかどうかを含めて、今一度話を伺いたいと思った。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。